

第13章 小学校教員の「地域」との関わり

鈴木秀男

(東京都台東区教育委員会生涯学習課 (非常勤))

はじめに

公立の小学校では、日々の教育活動において「地域」との関わりは不可欠であろう。

今回の調査でも回答者全体の21.8%が「地域など学校の外の資源を、教育内容・活動で活用すること」に「とても行っている」と答えている (Q14)。

実際、「連携」と思われる規模の関わりには及ばずとも、学校教育の両輪である学習面、生活面をはじめとして、安心・安全の確保に至るまで、多面的な必要性から学校と地域との関わりが築かれ、日常的に実践されている。

そして、地域との関わりが多いほど学校は円滑かつ安定的な教育活動が維持しやすく、その有用性が高いのではないかと。しかし、学校と地域との関わりには様々な課題や懸念されることもありますが、今回の調査の「自由記述」からも分かる。

ここでは、Q12とQ18の自由記述の回答を通して教員の「地域」との関わりや見解を具体的にみたい。

1 学校外の地域の人を活用

まず、Q12は、「子どもの学力の差を解消するために教師ができることとして、どのようなことがあると思いますか」という設問で、A～Fの項目に選択肢で答えた後に、F「学校外の地域の人を活用する」ことについて、自由記述での回答を求めている。

Q12-Fの自由記述には232名の回答があったが、当事者である教員が実際に地域との関わりの中で感じていることを語っていることから、小学校における学校(教員)と地域の関わりの実態を把握できる貴重な情報だといえる。

回答には、前向きな意見や具体的な提案が多く、地域との関わり的重要性を以下のように語っている。代表的な回答を挙げてみると、

地域の人とのかかわりは、コミュニケーション力の育成、キャリア教育、郷土愛を育む教育など、たくさん意味を持ち、地域に見守られている実感は、子供たちの自己肯定感を高めると思う(50-60歳、女)。／地域に開かれた学校作りのためにも、活用すべきだと考える(40-49歳、男)。／地域学校協同本部やコミュニティスクールの利点を生かし、ボランティアとして外部地域人材を活用し、放課後の学習(補習)を行う(40-49歳、男)。／学校応援団の活用(30-39歳、男)。／教師の力も限られている。地域の人材活用ができれば、教師の負担も軽減する(50-60歳、女)。／学校単位ではなく、市単位で人を募集する(29歳以下、男)。／現在の支援員が配置されている(50-60歳、女)。

などがあり、多種多様な方策や見解が示されている。

一方で、「学校外の地域の人を活用する」ことに難色を示す回答もある。そうした回答を、A

「批判的もしくは反対の意見」、B「学校や地域の状況」、C「気がかり」、D「その他」、に分けて例示してみると、

A 批判的、反対の意見

現状ではまだ、効果があまり得られない割に手続きやアフターケアの手間が大きすぎる（40-49歳、男）。／（前略）プリント、解答すべて学校が用意したので、職員の負担が大きくなり大変でした。地域の方に全て一任というのは難しいのではないかと思いました（50-60歳、女）。／学校外の人の活用は教師のできることでなく、行政が整備することではないか（30-39歳、女）。／学校外の人を招くほど学校の負担はむしろ増す。向こうは全エネルギーをもってそれにかかれるが、こちらにはそれ以外にもすることが山のようにある（50-60歳、女）。／学校との連携が難しいと感じる（40-49歳、女）。

B 学校や地域の状況

地域人材にもばらつきがある。学習に必要な助言や指導ができる人であるかの見極めが必要である（50-60歳、男）。／指導体制を整えることが困難である（50-60歳、男）。／市教育委員会から支援員の配置をいただいているので、これ以上の人員は必要ない。地域人材の活用は、セキュリティや個人情報守秘の面から簡単ではない（50-60歳、男）。／家庭での習慣、しつけが身につけていない子を、地域の人をお願いするのは、すごく負担になると思います（40-49歳、女）。／有償による放課後学習等（40-49歳、男）。／回数が限られ、単発的なので、あまり有効ではないと思う（50-60歳、女）。／地域によっては（地方）人材がいない（50-60歳、男）。／都市部、農村部（辺境）の人材格差、経済問題が根幹（50-60歳、男）。

C 気がかり

子供のプライバシーの問題がある（50-60歳、男）。／身元が分からないと怖い（40-49歳、女）。／人権教育の観点から、大切なことだと思うが教師（学校）がしっかり理解したうえで行うべきだと思う（30-39歳、女）。／子どもの関心と地域の人の思いとのズレがあるように思う。塾のように子どもが求める楽しさがあれば効果的な活用ができるのではないか（50-60歳、女）。／活用するにあたって様々な問題がある（50-60歳、女）。

D その他

学童、保育所の目的に、児童の資質、能力の向上を加える。魅力ある地域の活動に、放課後児童が参加したくなるような仕組みを作る（40-49歳、男）。／学びへの意欲（地域のひと、もの、ことへ）はある程度育てられるが、学力の差の解消とのつながりは、直接的ではないと考える。むしろ人とのつながりや社会の仕組みを理解し地域で生きていくことを考えさせる素材にはなりうる（50-60歳、男）。／人による（30-39歳、男）。

これらの回答は、異なる条件下で記述されたものであり、学校と地域の関わりは、形態も規模も内容も一律ではないことから一括りにはできない。だが、学校が地域と関わり教育活動を有意義に推進するうえで求められる留意点には各学校で共通することがある。たとえば、学校側の一方的な思いにならないこと、地域（先方）に丸投げにしないこと、小さなことから始め、継続していく心掛けなどではないか。

2 これからの小学校教育と地域

次に、「地域」について学校現場の実態や今後に向けた教員の考えを、Q18の自由記述に寄せられた回答で調べてみた。

Q18は「これからの小学校教育のあり方に関して、あなたのご意見をご自由にお書きください」という問で410人から回答があった（有効回答数763）。

そして、「地域」でキーワード検索した結果、410人中36人が「地域」に関わる内容の記述をしている。

Q18は、「学校と地域」について聞いたものではないが、日頃から「地域」を意識していることや地域との関わりに関心があることが分かる。

この36人の回答をもとに、教員が「地域」についてどのような意識をもっているのかを調べた。

Q18の自由記述には、地域との関わり大切さを述べている回答も多く、Q12での自由記述よりも広い視野での見解もある。同類のものをまとめ、36人の回答を列挙してみた（一部抜粋）。

A 学校・家庭・地域の連携

保護者、地域との連携が必要である（50-60歳、女）。／教師だけではなく地域、保護者も一緒に作っていけるようにしてもらいたい。教師が全てを背負うのではなく、保護者、地域対応、生活、そうじなど、様々な指導を分担して行えるようなシステム（40-49歳、女）。／家庭との連携、地域とも連携など、人とのつながりが大切になっていくと考えている（29歳以下、女）。／学校、家庭、地域が関わり合いながら、良い教育をしていければと思う（30-39歳、女）。／義務教育学校や小中一貫など、多様な教育システムをその地域、規模に合わせて行っていくことが大切。地域や保護者と一体となって学校教育を進めるべき（50-60歳、男）。／小学校は特に「地域の学校」として、それぞれの学校の特色が出しやすく、教育課程の工夫をすることで、地域の教育コンテンツを十分に活用しながら、大きな教育効果を生むことができる（50-60歳、男）。／学校と保護者、地域の方がゆったりとしたスタンスで子供の成長を育むことができればと思う（50-60歳、男）。／学校と地域、学校と企業などの連携が必要不可欠（29歳以下、男）。／コミュニティスクールを充実させ、学校、地域、保護者と連携し、子どもを育てていく体勢を現在作っているの、今後が大切（50-60歳、女）。／学校と保護者、地域の方の連携が大切。コロナ禍でなかなか人との交流が難しい時代だが、本来のあるべき姿へと戻していきたい（50-60歳、女）。／子どもの教育を全て学校で行うのではなく、地域、家庭と連携し、同じ目的、目標をもって子どもと関わっていくことが大切（30-39歳、男）。

B 地域の特性、地域間の教育格差

公立学校は地域の特性に沿って、教育内容を柔軟に調整することはよいが、ある分野に特化して高度な内容を学習するのはよくないと考えている（50-60歳、男）。／地域の特性もあるので、弾力的な考え方も必要である。小学校は保育園、中学校との連携をより密にして、つけたい力をつける教育課程を実施していくとよいのではないかと（40-49歳、女）。／地域間の教育格差の解消は、平等な教育機会保障の大前提（50-60歳、男）。

C 地域の役割・課題・目標・要望

子供たち一人一人が自身の生き方や未来、将来について現在の自分や自分を取り巻く人々や地域の課題などについて、解決を目指すことを大事にしながら進めていきたい (50-60歳、男)。／保護者や地域の要望、社会の期待にすべてこたえながら進めていくのは難しく、年々限界を感じながら、日々努力を積み重ねています (50-60歳、女)。／家庭、地域、学校の役割をそれぞれ明確にする必要がある。これまで学校では家庭、地域の役割を担い過ぎていた (30-39歳、男)。／学校や地域によって、目指すものが大きく変わらざるをえない時代になってきていると思います (50-60歳、男)。／各児童、地域の要請に応じ、開かれた特色ある学校づくりを推進してもよいが、あくまで地域主体で行えるよう仕組みづくりを行う (40-49歳、男)。

D 仕事の削減

総合的学習等を増やさない (50-60歳、女)。／地域と共にある学校であることは必要だが、それが学校の教職員の仕事を増加 (働き方改革とは逆行) している (50-60歳、男)。／忙しくなっているのは、一人当たりの業務量が多いこと。学校教育にも地域人材や学習支援サポーターなどを十分確保した上で、その業務量を減らしてほしい (30-39歳、男)。／小学校に求められていることも多すぎます。家庭でやるべきこと、地域で進めること、行政ですべきことの整理をし、子どもも職員も楽しく安全な学校生活が送れるようにしてほしいと思います (50-60歳、女)。／地域との連携も考え、全て小学校で行うのではなく、学校教育の内容をもっと厳選すべきだと考えている (働き方改革にも通じてくると思う) (50-60歳、女)。

E 行政の支援

教師に対する支援も必要であるため、行政、地域にもして欲しい (50-60歳、男)。／「何でも学校で」ではなく、地域や行政で行う〇〇教育があってもよいと思います (30-39歳、男)。

F 地域の力

地域の力、保護者の力、その他の力を活用すべきだと思います (50-60歳、女)。／担任一人が抱え込むのではなく、複数の教師が指導を行ったり、複数担任制も必要。さらに専門家や地域の力も必要 (50-60歳、女)。／家庭や地域の教育力の低下が気になります (50-60歳、男)。

G その他

欧米諸国の学力の高い地域の教育をどんどん取り入れて、子供が楽しく教員も専門性を活かして笑顔で仕事をできる場になるとよい (50-60歳、女)。／「大人が地域がそういう見方をしているよ」と子供に教えるから、偏見が生まれるのだと思います (29歳以下、男)。／学習の基礎、基本を学び、地域との関わりができる場 (50-60歳、女)。／子どもたちに行き届いた教育活動を行うためにも、地域人材の活用、人員の増員 (教科担任制、フリーの教員の充実) などが積極的に行われ、組織やシステムの強化につながればよいと思う (40-49歳、男)。／地域の方でもなくサポーターでもなく、資格があつて校務分掌をきちんと受け持つ立場の職員が必要 (50-60歳、女)。

おわりに

これまでみてきたように、学校と地域は様々に関わりをもっており、各校の学校経営や教育活動を高める上で、有効な手段の一つであることが分かる。

そのことは、教員の回答にも同様の考えが述べられていることから分かる。願わくば、地域にとっても有意義であることを期待したいが、その実現には学校側の地域に対する配慮や対応が必要になる。

Q18で挙げた36人の回答者には管理職や主任、主幹が含まれているが、地域に対して特に気をつけたいことが幾つかある。

まずは日頃からの学校側と地域の意思の疎通である。同時に大事なことは校長・副校長を中心に多くの教職員が組織的に関われる計画の立案で、それを地域に相談し、徐々に形にして、継続していくことではないだろうか。

「学校と地域の関わり」は、規模や内容、方法（誰が、いつ、どこで、誰と、何を、どのように行うか）が学校や地域の諸状況で異なるために“千差万別”であり、その価値判断や評価も容易ではない。

そのために敬遠されがちではあるが、学校が保護者や地域と関わりを深めながら教育活動を展開することは、学校の特色や諸課題の解決方法を内外に示す良い機会でもあると思う。各学校、教職員の創意工夫と地道な努力に期待したい。